

脱炭素社会の実現に向けた児童の資質・能力の育成

根室市立落石小学校 学級数6 (校長 加藤 和弘)

I 本実践の概要

本校では、持続可能な社会づくりに関わる課題を解決するために必要な能力や態度の育成を目指し、環境教育の目標や目指す子どもの姿を明確にし、全教職員で共有するとともに、校区にある国立環境研究所等の地域の教育資源を活用した教育活動を実践した。

II 本実践の内容

1 本校における環境教育の目標や目指す子どもの姿の明確化

本校では、環境教育の充実に向けて、低・中・高学年別に「環境に対する感受性の育成」「環境に対する見方・考え方の育成」「環境に働きかける実践力の育成」の目標を設定し、目指す子どもの姿を明確にした。

2 目指す子どもの姿の実現に向けた人的・物的な体制の確保

校区にある国立環境研究所の地球環境モニタリングステーションや風力発電施設、根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター等の施設を積極的に活用した学習活動を行った。

3 取組の実際

小学校第5・6学年では、事前に、脱炭素社会に向けた取組を学び、課題を明確にした後、本校区にある国立環境研究所の地球環境モニタリングステーションの見学を行った。

児童は、海水と二酸化炭素量の関係についての説明を受け、これまでの学びから生まれた疑問を解決するとともに、地球温暖化防止活動推進員から世界の環境問題について学び、新たな課題をもつことができた。

見学後は、風力発電や落石地区の環境など、調べたことを整理し、児童同士の対話を通して地域住民の一人として環境を守るために何ができるかを考え、課題追究のまとめを行った。この取組により、自然豊かな落石地区のよさを考え、地域への愛着を深めることができた。

III 成果(○)と課題(●)

- 環境教育の目標や目指す子どもの姿を踏まえ、地域の教育資源を積極的に活用するなどして、指導計画を作成したことにより、持続可能な社会づくりに関わる課題を解決するために必要な能力や態度の育成につなげることができた。
- 環境教育の充実に向けて、小・中学校の9年間を見通して、育成する資質・能力や発達の段階、教科等横断的な視点から指導計画の見直し・改善を図るとともに、学校と地域が一体となった取組を充実する必要がある。

低学年	中学年	高学年
(環境に対する感受性の育成)	(環境に対する見方・考え方の育成)	(環境に働きかける実践力の育成)
○身近な自然と親しむ子	○自然に親しみ、身近な環境に関心をもつ子	○我が国の自然環境及び生活環境に関心をもつ子
○身近な動物に関わる子	○身近な環境と自分たちの生活との関わりが分かる子	○環境や環境問題について自分の考えをもつ子
○動植物が生命をもっていることに気付く子	○身近な環境美化・環境保全に参加する子	○身近な環境美化・環境保全に進んで参加する子

【環境教育における目指す子どもの姿】



【国立環境研究所の施設を見学している様子】



【海水と二酸化炭素量の関係の説明を聞く様子】



【世界の環境問題について学習している様子】